

この地とこれから

この連載では、大和ハウス工業と石川県との深い縁を、「過去」「現在」の二つの視点からたどります。
第4回は、創業者が志賀町で語った夢と、将来に向けた当社の取り組みをご紹介します。

第4回

社会の役に立つ 企業であり続ける

志賀町で語られた夢

大和ハウス工業の創業者・石橋信夫は、晩年を志賀町の「石橋山荘」で過ごしました。病を抱えながらも語り続けたのは、「地域社会の役に立つ存在であり続ける」という将来の夢でした。これまで紹介してきた加賀松が丘団地における「再耕」や、能登半島地震への対応は、その実践です。

石橋信夫の夢は後継者や社員に託されました。

未来に、そして社会に貢献できるサステナブルな企業を目指して、「生きる喜びを未来の景色に。」を将来の夢に掲げ、脱炭素や地方創生といった社会課題の解決につながる持続可能なまちづくりに取り組んでいます。

生きる喜びのために

生きる喜びを分かち合える世界の実現に向けて、大和ハウス工業では全国で多岐にわたる事業を展開しています。近年では、既存事業のリソースを最大限に活用するための組織改革を実行し、最適なソリューションをワンストップで提供できる体制を構築しました。また、

中長期の成長を見据え、データセンター事業本部の新設や、既存建築のリフォーム・買取販売などに特化した「Livness（リブネス）」事業の強化、建築物の木造・木質化を積極的に推進するための「Future with Wood」プロジェクトの立ち上げなど、新たな柱となる事業の確立を目指しています。

過去から現在、そして未来へ、世の中の役に立つ。

創業者・石橋信夫の志と夢は大和ハウスグループの原点であり、これからも変わらず私たちが導き、人を育て、まちを育み、社会に貢献し続けていきます。

2055年に向けて私たちが目指す社会と、重点的に取り組む3つのアクション



データセンター DPDC印西パーク



Future with Wood (建築物の木造・木質化)
河村電器産業株式会社 つくば工場食堂棟



DPL大阪舞洲

